



いのけんまつり

井の頭

吉祥寺

三鷹

井の頭恩賜公園開園100周年カウントダウン新聞

18号
2014年9・10月号

2014年(平成26年)9月1日

●編集・発行
いのきちさん編集委員会
編集長 川井信良

東京都三鷹市上連雀 1-12-17
株式会社文伸 発行
電 話 0422-60-2211
FAX 0422-60-2200
メール inokichi@bun-shin.co.jp

●協力
東京都西部公園緑地事務所
東京都井の頭自然文化園
井の頭恩賜公園100年実行委員会
NPO 法人みたか都市観光協会
一般社団法人武蔵野市観光機構
●制作支援
株式会社文伸 / ふんしん出版

井の頭恩賜公園
開園100周年まで

あと2年8ヵ月

連載絵本 カモ次郎の巻 その5

「かいぼり」のおかげで池の水が澄んできた井の頭池、その水が流れ出す神田川も透き通る程きれいになりました。川遊びにやってくる子供も増え、ガイー子はヒナ達と井の頭池へ引越す事にしました。カモ次郎は引越す事を見守りながら、ヒナ達のたくましい姿に、自分の役割は終わったのだと感じました。

絵と文 せのうさちこ

せのうさちこ 1975年 盛岡市で生まれる。小6で三鷹へ転校。アニメ動画から絵本に進む。三鷹市在住。

INFORMATION 2014年9月~10月

井の頭自然文化園

●お祭りにモルモットがやってくる
今年も次のお祭りに当園からモルモットが出張します。お祭りも動物とのふれあいも両方楽しんでください。

●時間限定。詳細は当日会場にてご確認ください

9月21日(日) 三鷹国際交流フェスティバル
(井の頭恩賜公園交流広場及び野球場とその周辺)

10月19日(日) むさしの環境フェスタ
(武蔵野プレイス前ふれあい公園)



●「身近ないきもの探検

——みんなのまわりの虫たちを探してみよう」参加者募集

テーマ：秋にはどんないきものが見つかるかな?

日 時：2014年10月18日(土) 10時~15時

対 象：小学2年生~6年生および保護者

締 切：2014年10月4日(土)



詳しくはホームページをご覧ください。http://www.tokyo-zoo.net/zoo/ino/index.html

井の頭恩賜公園

ネイチャー☆プログラム 次世代を担う子供たちや公園を訪れる人たちに、わかりやすく楽しく「自然の仕組み」を学び遊んでもらうプログラムです。

- どんぐり広場(御殿山) 9月4日(木)
- ツリー☆マジック(第二公園) 9月6日(土)
- あおぞら実験室(井の頭池付近) 9月7日(日)
- グリーンバード(井の頭池付近) 9月14日(日)

詳しくはホームページをご覧ください。http://www.i-np.jp/index.html に載せます。

- 野外劇(新公園) 9月4日(木)~14日(日)
- アニメワンダーランド(ステージ前) 10月11日(土)、12日(日)
- 井の頭100祭(ステージ前) 10月18日(土)、19日(日)
- 三鷹の森フェスティバル(新公園) 10月19日(日)

井の頭かんさつ会

- 第113回「野鳥観察」 9月27日(土) 09:00~11:00
- 第114回「土壌生物」 10月26日(日) 10:00~12:00

事前申し込みが必要です。詳細や申し込み方法はHP <http://www.kansatsukai.net/>

1級 渡辺安浩 の

いのけん受験講座
答え合わせ

- Q1 (2) 郊外公園
- Q2 (2) 9
- Q3 (1) 1



アートマーケットと ヘアアーティストな人々

つぶつぶ屋コトタマ堂さん(つぶつぶ小物作家)



つぶつぶキャラクターのようにニコニコ笑う つぶつぶ屋コトタマ堂さん

ユニークな店名は、その店先に立てば一目瞭然。樹脂粘土や木粉粘土を小指の先ほどの大きさに丸めた「つぶつぶ」が所狭しと並びます。

一粒ごとに描かれるのは、いわゆる変顔。粒は粒でもそれぞれにキャラクターがあって、3つの粒がさやに入った「福豆」、種の形の「しあわせのタネ」、合掌する「ベイビーブッダ」などなど。裏に返すと、キャラクター名や「生まれてきてくれてありがとう」「のんびりしあわせ」といったメッセージが書かれています。「顔の表情で面白おかしく笑って、ふと言葉が目に入ったときにハッピーになってもらえたら」とつぶつぶ屋コトタマ堂さん。

以前はマッサージの仕事をしていて、お客さんとの会話のきっかけとして作ったのがこの始まり。インドやチベットの文化が好きで、「つぶつぶ」モチーフもどこかスピリチュアルな雰囲気です。「人が街を作ると思っていたけれど、人を育てる街があることを教えてくれたのが吉祥寺。その中心にある井の頭公園に恋に落ちました」と公園愛を語ります。



一つひとつ表情豊かで色とりどり

小田原 澤 (おだわら みお)
編集者・ライター。フィールドは多摩。三鷹市在住。

アートマーケットは、主に土・日・祝日に開催しています。

はな子の夏対策—今年も桃缶—

毎夏がやって来ると、飼育担当者は暑さ対策に頭を悩ませます。エアコンの温度をこまめに設定したり、放飼前にシャッターを開けて外気温との差を縮めたりと細かく気を使っているのははな子の健康管理に努めます。それでも猛暑時にははな子の食欲が落ち気味になるので、少しでも栄養があって、しかも彼女の嗜好にあった季節のものを工夫しなければなりません。

今年の春先から好んで食べていたヤマモにも飽きてきたのか、残すようになったため、栄養的にはあまり期待はできないのですが、夏の初めにナスに切り替えました。最初は珍しいせいもあって良く食べていたナスも、しばらくしたら残すようになりまして。そこで、色々試したところ、桃の缶詰が好きな事を発見しました。1日に10缶、重さで2.5kgぐらいの甘い桃をつるつると喜んで食べています。

では桃が漬かっていたシロップも好むかと思ひ、湯に溶かして与えてみましたがこちらは嫌ってそっぽを向いてしまいました。本当にはな子の好みを把握するのは難しいと改めて感じた次第です。

現在(2014年8月20日)、はな子は毎日スイカ2玉と桃缶、そして主食のパナナと果物三昧のメニューで暑い夏を乗り切るように頑張っていますので、是非皆さんも応援してくださいね。(飼育展示係係長 山本藤生)



井の頭公園の生き物たち

その18 水草

井の頭かんさつ会 田中 利秋 (たなか としあき) 井の頭かんさつ会代表。毎月自然観察会を開催。池の外來魚問題にも取り組む。



イトモ?の群落
驚きの復活
かいぼり後に七井橋の近くに生えてきた沈水植物です。ヒルムシロ科のイトモ、あるいはその類似種と見られていて、今ではお茶の水池の数か所に群落を作っています。ちなみに、水生植物は、水底から葉を水上に伸ばす抽水植物、葉を水面に広げる浮葉植物、全体が水中で育つ沈水植物、そして全草が水面に浮かぶ浮遊植物に大別されます。「水草」の範囲は曖昧ですが、一般的には、沈水植物と水中葉を多く付ける浮葉植物を指すことが多いと思います。抽水植物のガマやミクリの仲間、サジオモダカなども池底から芽生えてきました。最

お茶の水池ペアの一番子2羽は無事成長して池を離れ、二回目繁殖の卵6個は、ヒナ1羽が孵ったものの、その日に巣がへびに襲われて残り全滅。現在は三回目繁殖の卵4個を抱卵中で、二番子も同居しています。ポト池ペアは4羽のヒナを孵し、全員すくすく成長。1羽は不明ですが、1羽は親元を離れて神田川で暮らし、残りの2羽が親と池にいます。七井ペアも4個の卵を孵し、ヒナたちは元気に成長中です。以上は8月20日の状況で、この号が出る時には子育てはさらに進んでいることでしょう。



かいぼりした池のブルーギル稚魚(8月16日)

井の頭かんさつ会 田中 利秋 <http://homepage2.nifty.com/tnt-lab/>

18

楽園に暗雲

「楽園はよみがえるか!」



カイツブリは、得意の潜水で小魚やエビを捕まえる。小さな水鳥です。池や川にカッパルで縄張りを作って暮らし、子育てをします。

せのうさちこ

井の頭池のボート、時代の変遷をたどる

手漕ぎ、サイクル、スワンの3種のボートが借りられる井の頭池。桜の季節はもとより四季を通じて人気なのは、気軽にちよっぴり非日常が味わえるからでしょうか。「カップルでボートに乗ると、弁財天に嫉妬されて別れる」という都市伝説も有名ですね。今回は、井の頭池のボートの変遷をたどってみま



ボート乗り場



▲「井の頭公園*まるごとガイドブック」より【提供：井之頭町会】

井の頭池にボート場が開設されたのは、「井の頭恩賜公園」(前島康彦著/東京公園文庫)の略年表によると昭和4(1929)年。公園開園から12年目のことでした。ただし、それ以前にも小さな舟が池に浮かんでいたようです。現在、七井橋がかかっている場所にまだ橋がなかった頃のこと、「複線の鋼索(こうさく)を池の両岸で固定し、船頭のかわりに乗船者自身がそれをたぐって対岸に渡るといふもので、地元の人はこちらをハリガネワタシと呼んでいました」(『井の頭自然文化園開園50年の歩みと将来』より)。「ハリガネワタシ」、響きが可愛いらしいですね。どんな舟がどんな風に使われていたのか興味がかき立てられますが、残念ながら私がこれまで調べた中では写真を見たことがありません。

七井橋ができたのは、「写真集 みたかの今昔」(三鷹市教育委員会)に掲載されている「七井橋渡り初め」のキャプションから「大正11(1922)年」だったと思われます。もし「ハリガネワタシ」が公園開園とともに設置されていたとしたら、約5年使われたこととなります(その辺りの記録はまだ見つけていないので、あくまで推測)。

そしてもうひとつ、船の話があります。細長い電動モーターボートが昭和11年頃から昭和14、15年にかけて、公園直営の有料遊覧乗合船として運航されていたのです。池尻と中之島をつなぐこの船には操舵手のほかに女性乗務員が1人いて、乗客がある程度集まると動いていたそうです。遊覧乗合船が浮かぶ井の頭池の風景を想像してみると、昭和になって周囲の宅地化が少しずつ進んでいたとはいえ、今よりもずっと「観光地」の色彩が強かったたろうと思います。

安田知代

安田知代(やすだ ちよ) 編集者・ライター。井の頭公園*まるごとガイドブック「懐かしの井之頭」昭和29・40年編。

私と井の頭公園その18

はな子は自然の畏怖尊厳を教えてくれる象徴

室伏三喜男(千葉柏市)

室伏三喜男さん(59歳)は、井の頭自然文化園の人気者ソウのはな子の飼育員である。仕事を離れると名門諏訪流の鷹匠でもあり、常に野生(自然)と接している者として、はな子の存在の意味を語ってくれた。

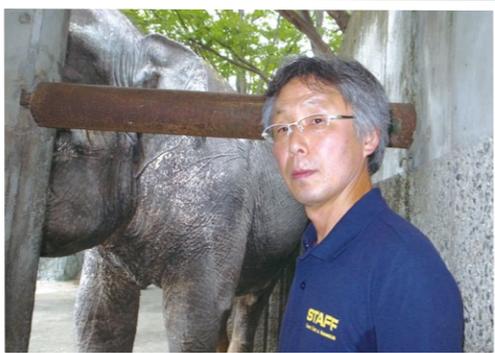
上野動物園から井の頭自然文化園に異動したのが10年前です。その時「ソウの飼育だけは勘弁してもらいたい」と思っていたのですが、ソウの担当に任命されました。みなさんは多分「はな子の担当になっていいですね」と思うでしょうが、ソウはその気になれば人を簡単に殺してしまう力を持っています。はな子も2度の死亡事故を起こしています。自然の野生動物は、恵みや癒しを与えてくれますが、反面人の命も簡単に奪ってしまう恐ろしい力を秘めているということが、現代人、都会人には見えなくなっていると思います。今世の中では『カワイイ』が氾濫(はんらん)していますが、動物に対してもそうです。テレビの『あらいぐまラスカル』を観てアライグマを飼った人が、次第に手におえなくなり、雑木林や公園に捨ててしまう例などは、『カワイイ』しか見なくて、野生というか自然に対する理解が薄れてしまっている証拠です。

僕が、ソウのはな子の飼育に向き合って、改めて教えられたことは、僕も野生動物も含めて自然であるということ。自然はコントロールできないし、コントロールしてはいけないものでもあること。自然を甘く見ているはいけないこと。自然が見えなくなると自然からかけ離れないこと、などですが、それらをひとこと言えは、人は自然に対する畏怖(おそ)やその尊厳を忘れてはならないことだと思います。ソウのはな子は、みなさんの距離感では見えにくい、感じにくいかもしれませんが、そういう意味で私たちに、可愛いさと同時に大自然の畏怖や尊厳を教えてくれる大切な象徴なのです。

(東京都井の頭自然文化園 飼育展示係主任)

むつふし みきお

(聞き手・写真・川井信良)



川井信良(かわいしんりょう) 70年代80年代に三鷹(さんりょう)で「またたび」や「みたかきいたか」を発行。



写真 古賀 親宗(こが ちかむね) 1983年 福岡県柳川市生まれ。三鷹市在住のフォトグラファー。

第1回 1級渡辺安浩のいのけん受験講座

今号から、本誌『いのけん講座』の出題者が井の頭公園検定1級認定の渡辺安浩さんに代わります。渡辺さんの受験奮闘ぶりはいのきちさん16号で紹介されています。

- Q1 井の頭恩賜公園は、1917(大正6)年5月1日に開園しましたが、日本初のどのような公園として、整備されたのでしょうか？ (1) 自然公園 (2) 郊外公園 (3) 都会公園
- Q2 井の頭恩賜公園の開園面積は、2014(平成26)年6月1日現在、東京ドームの約何個分でしょうか？ (1) 8 (2) 9 (3) 10
- Q3 井の頭池の大きさは、東京ドームのおよそ何個分でしょうか？ (1) 1 (2) 1.5 (3) 2

答えは裏面のインフォメーションのところだよ

よみがえれ！井の頭池18



▼捕獲した水生生物は採寸しながら記録。地道な定点観測が、現状把握の貴重な指標となる。

「かいぼり隊」、定点観測を継続中！

昨年10月に応募で集まった「かいぼり隊」。今年1月から9月に行われた「かいぼり」の後も40名が活動を継続しています。主な活動は、池の各所に仕掛けた網にかかっているカメや魚をひきあげたり、水草の根元で網をゆすって捕獲したりして、種類、数、大きさを計測して記録すること。それによって、在来魚の稚魚が観察されたり、明らかに在来魚の数が増えていることが確認されています。

『かいぼり隊』は、みなさんボランティアです。池の水をきれいにしたい「在来種の生物を増やしたい」「よりよい環境を未来に残したい」という思いで参加していらっしゃいます。座学と現場での実践を通して、現在の池の生態をよく知る方々です。池の畔に『かいぼり隊』の幟旗を立てて活動しているときに、気になることを質問すれば気軽に教えてくれますよ。

『いのきちさん』について

都立井の頭恩賜公園が2017年5月に開園100周年を迎えます。「いのきちさん」は、もうすぐ100歳を迎える井の頭公園に、感謝の気持ちを込めて、地域の市民と企業と団体の協力により発刊された100周年カウントダウン新聞です。名称は井の頭公園の「いの」、隣接する吉祥寺の「きち」、井の頭池が市内となる三鷹市の「さん」を並べたものです。(奇数月1日の隔月発行です)

「いのきちさん」のホームページができました！更新中！
<http://www.inokichisan.com/>

「いのきちさん」の感想やお問合せはメールでも受付けています。
inokichi@bun-shin.co.jp

「いのきちさん」を置いていただける所を募集しています。

スマートフォンのQRコード

R100 VEGETABLE OIL LINK